

# 防災マップ

災害にそなえる



**非常時緊急連絡先**

- 〈豊見城市役所〉 098-850-0024 (代表) 〈消防〉 (局番なし) 119
- 〈警察〉 (局番なし) 110 〈沖縄電力〉 (停電・緊急時) 那覇支店 0120-586-701
- 豊見城警察署 098-850-0110

**わが家の指定緊急避難場所**

地震時	津波・高潮時	洪水等水害時	土砂災害時

平成31年 3月

## 平常時から確認しておくこと

**非常時持ち出し品チェック**

携帯ラジオ	救急医療品	貴重品	その他
ラジオ	常備薬	食料・水	現金
電池 (多めに用意)	救急箱	避難用	預金通帳
携帯バッテリー	携帯トイレ	懐中電灯	免許証
			権利証書

※家族が必要なものを確認してカッコを埋めましょう。例：哺乳ビン、眼鏡、毛布など

**いつ起こるか分からない自然災害に備えて!**

**豊見城市防災情報メールシステム**

メールシステムに登録された方のみに以下の情報が送信されます。

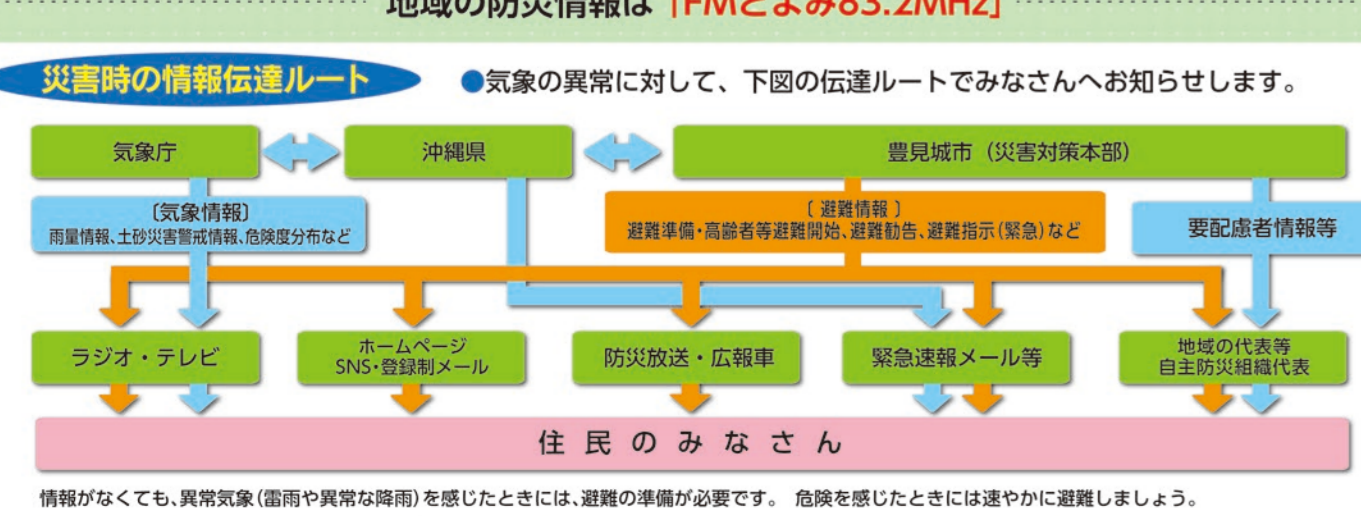
- ① 国民保護 (大規模テロ、航空攻撃、弾道ミサイル、グリタ)
- ② 緊急地震速報 (推定震度4〜7)
- ③ 地震情報 (震度速報4〜7、震源深度に関する情報)
- ④ 津波情報 (大津波警報、津波警報、津波注意報)
- ⑤ 気象情報 (警報)
- ⑥ 気象情報 (土砂災害警戒情報)
- ⑦ 気象情報 (記録的短時間大雨情報)
- ⑧ 防災無線放送情報

市民の皆さまも災害等に備え、メールシステムに登録しましょう!

**防災放送聞き直しダイヤル: 0120-456-322** 市より発信された喫緊の放送をフリーダイヤルで確認できます。

**災害用伝言ダイヤルとは?** NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地の内線番号の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置しています。

伝言の録音	17171	伝言の発信	17172
伝言の再生	17171	伝言の受信	17172



## 地震・津波

**～地震～ 事前の対策** 日本は世界有数の地震国であり、これまで何度も地震に襲われ、大きな被害を受けてきました。津波も決して例外ではありません。地震は突然発生するので、日頃の対策が大切です。

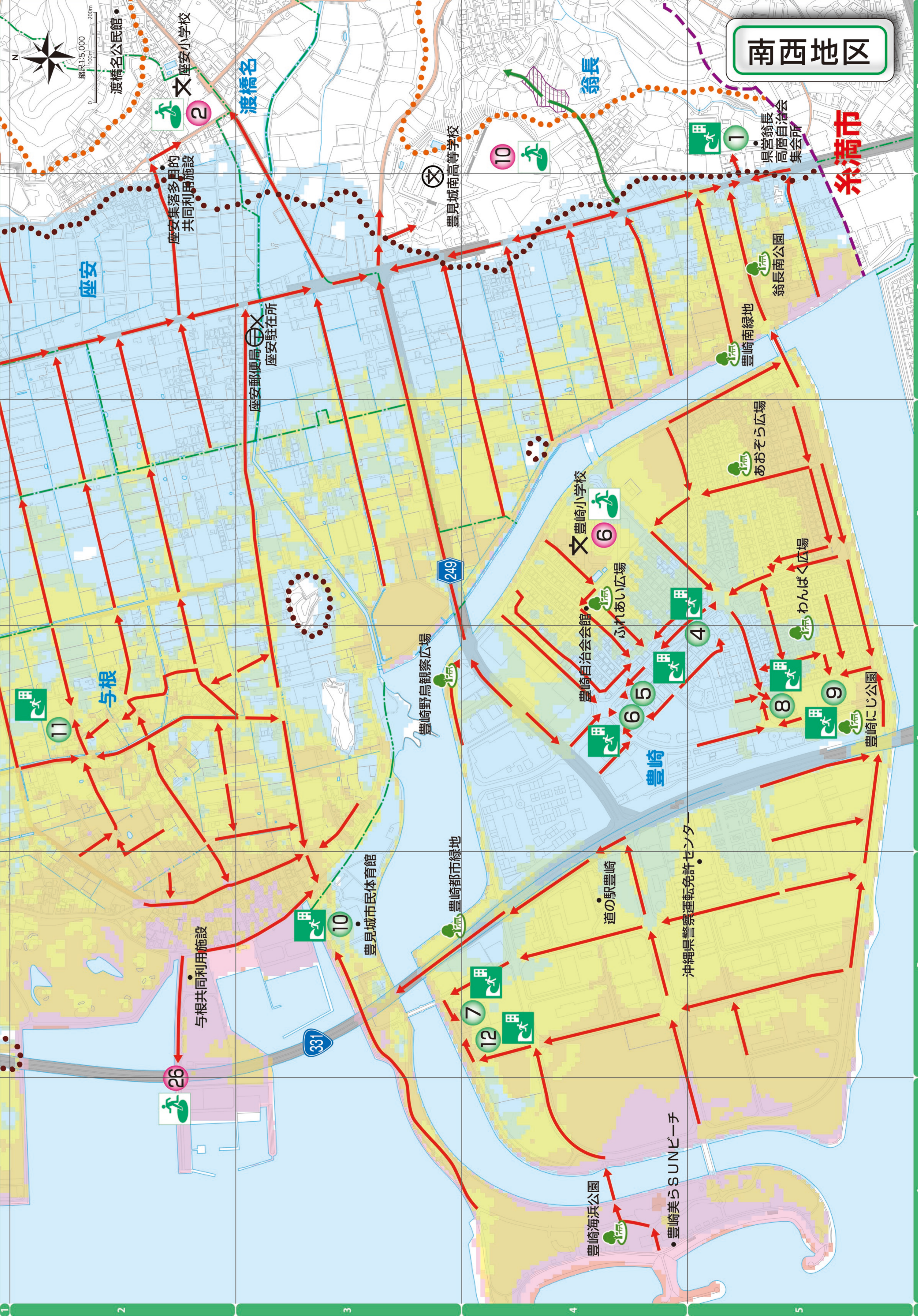
- ① **家具の固定**: 天井だけでなく床の刺もストッパーなどで固定をして、上下に分かれている家具類は連結しておきましょう。
- ② **家具の配置**: 寝室や出入り口付近で家具を固定できない場合には、家具が倒れてもドアが開くような位置・向きにする。
- ③ **飛散防止**: 窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る。窓はもちろん、食器棚や鏡などに使われているガラスにも忘れずに。
- ④ **スリッパ等の準備**: 窓ガラスや食器の破片は、あなたの行く手をはばむ地震発生時は、裸足で歩ける状態ではありません。スリッパやソニーカーなど、履きかたでいつでも使用できるように準備しておきましょう。

**～地震～ 発生後の行動** 地震発生の際は適切な判断が難しいものです。自分の命を守ることを最優先に次の10項目を参考に落ちついて行動しましょう。

- 1 落ち着いて身の安全を確保する
- 2 あわてず冷静に出入口を防ぐ
- 3 窓や戸を開け出口を確保する
- 4 停電後の通電火災を防ぐ
- 5 慌てて外に飛び出さない
- 6 避難は徒歩で持物は最小限に
- 7 狭い路地、柄ざわ、川べりは要注意
- 8 山崩れ、崖崩れ、津波に注意
- 9 正しい情報、正しい行動
- 10 避難は早めに。協力しながら…

**～津波～ 発生後の行動** 海に囲まれている沖縄は、過去に大きな津波に襲われた記録があります。津波には様々なタイプのものがあり、揺れが小さく地震や遠くで起こった地震、火山の噴火等でも引き起こることから津波警報等を確認したら速やかに避難しましょう。

- 1 避難は自ら判断を
- 2 避難に車を使わない
- 3 「遠く」よりも「高く」に
- 4 津波は繰り返して襲ってくる



## 洪水・土砂災害

**～洪水～** 雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

**～土砂災害～** 土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況(土砂災害の前兆)に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。また、日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

**洪水・土砂災害での避難の仕方**

- 土砂災害**: 土砂災害警戒情報が発令された場合は、直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。また、日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。
- 外水氾濫**: 大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防が決壊して川の水が外にあふれ出る。氾濫が起きると一気に水かさが増します。最大の注意が必要。
- 内水氾濫**: その場所に降った雨や、周りから流れ込んできた水が引けずに溜まっていき、水かさが増して、水が溢れ出る。土砂災害と同様に、最大の注意が必要。
- 土石流**: 山崩れ、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に川に流れ込んでくる。また、土砂災害警戒情報が発表された場合、土石流が発生する可能性があります。
- 地すべり**: 斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響などでゆっくりと斜面下方向に移動する現象のことです。一般的には、斜面の土壌が湿りやすくなり、土壌の強度が低下し、斜面の安定性が低下します。

※上記は一般的な事前現象です。すべての場合に必ず起きるとは限りません。ただし、少しでも危険を感じたら避難するようにしましょう。

**避難行動要支援者のために**

〈高齢者や病気の方など〉 〈目の不自由な方〉 〈耳の不自由な方〉 〈外国人の方〉

避難行動要支援者とは、災害時に避難行動が困難な方です。避難行動要支援者の方には、避難行動要支援者名簿を提出していただき、避難行動要支援者として登録をお願いします。